讀者の領分

注意　長文及水彩畫に無關係のものは御斷り。◎印は編者の答。投書者の要點のみを掲ぐ

■三日發行の『みづゑ』が其日の夕方着く、時には一日早く着く、其嬉しさは一通りではないがさて偶に半日でも遲れると氣が氣でない僕は郵便局迄とりにゆくのです（相模太郎）■來年大阪で夏期講習會を開くとは眞實ですか屹度希望者が多いから是非決行したまへ（浪華狂畫生）■大下先生丸山眞野諸先生の御肖像を中學世界や文章世界又は『みづゑ』で拜見して多年の希望が達せられこんな喜ばしいことはない何卒此上の慾には御經歷を少々話して頂きたい（本郷紫紅）■『みづゑ』の第八と大下先生の水彩畫帖はまだありますか（松本、KK）◎何れも少し殘本があります■夏期講習會は盛んでした羨ましい私共の地方でもいつか開いて貰ひたい（仙臺北岩生）■來年上州邊で夏期講習をさろゝよし中學世界にありましたが場處は何處ですか（前橋河村生）◎若し開けば信濃境の鹿澤溫泉附近です■諸君水彩繪ハガキを御交換下さい然し畫面へは字を書かずに失敬ですが一二三等には水彩繪はがき一組附けて返禮します他は自筆にて十一月三十日迄に（播磨舞子局内多聞村朽木春翠）■文章世界で大下丸山兩先生にお目にかゝり又『みづゑ』で眞野大橋兩先生を拜して多年の望を達しました爾後他の幹部の方の御寫眞も出して下さい（麻布みつば）■晩秀生君御讓受してもよい御宿所を紙上に（松山、YM生）

奇拔と失敗

（承前）

□左の手は腰のあたりで帶を摑み右の手は三本の指で筆の先を持つて、二本の指を四十五度に開き、クット反り身になつて畫面に向ふのは晩雪君である□同君の熱心は有名なもので、日中河原で傘を翳しながら寫生してゐたが、太陽は疾くの昔に地平線下へ入つて仕舞つても、矢張左の手に傘を持つたまゝ一切夢中□晴帆君の傘立てこそ奇拔なものだ、先づ鍬の柄に傘を結びつけ、地上に置て、鍬の先には大きな石を載せたものだ、傾斜の工合も丁度よいし、是では一寸した風にも恐れない、實用新案の登錄でもしたらよからう□僕の處へは毎晩猫が這入つて來る畜生々々

（完）

通信

○　彩美會員　大藤榮一

拜啓、私の學校（京都府立第二中學校）に今度水彩畫の會が起りました。會名は彩美會と申し、會員は約三十名許、三、四、五の各年級に一人の委員があつて萬事世話燒をします、監督には圖畫教師の鈴川信一先生と、得田耕先生の御兩人で、毎月一回の寫生會と展覽會とを開き、展覽會にては會員の互選法で等級を定め、監督先生の御批評を願つて居ります。第一回展覽會は、去る十日より三日間校内の倶樂部で開催しましたが、折も折とて、當地岡崎に關西美術會の洋畫展覽會が開かれ、人の氣が繪畫に傾いて居た時でありました故、彩美會の人氣は校内に溢れて非常の盛會でありました。今、秋の半、滿目蕭條の冬枯は近くなつたのに、茲藝苑に春風が渡つて、小さい若芽が萌え出しました、熱心と希望とは輝いて居ります、あゝ此若葉柳檀でせうか雜草でせうか、